

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-21 今泉クリーンセンター収集事業				ザイムスコード及び個別事業名	
	□支援部門				1170	今泉CC収集事業
主管課	今泉クリーンセンター		関連課	環境部内各課・管財課車両管理担当		
分野名	生活環境					
目標 (目標値)	収集の効率化。可燃ごみの減量化。(生ごみの資源化及び循環資源の再使用、再生利用)					
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考		
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯			
収集対象人口	73,174人	72,849人				
運営資源 状況	決算値	11,432千円	25,994千円	指標と評価		
	(国・県)					
	(負担金等)		8,700千円			
	(一般財源)	11,432千円	17,294千円			
	人員配置数	46.8人	47.9人			
	人件費	433,790千円	449,130千円			
	協働の パートナー	自治・町内会 廃棄物減量化等推進員	自治・町内会 廃棄物減量化等推進員			
評価			◎			
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退						
事務事業 運営経費	総事業費	445,222千円	475,124千円	20年度	10,000.00t	9,929.56t
	市民1人当 りの経費	2,520円	2,692円	21年度	10,000.00t	9,599.34t
	対象者1人 当りの経費	6,084円	6,522円	22年度	10,000.00t	
	ベンチマー ク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名			23年度	10,000.00t
				最終年度 (25年度)	10,000.00t	
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・年度内途中に退職者等があり減員が生じたため、収集体制等を確保するのに苦慮した。 ・高齢者社会の進行による「声かけふれあい収集」の収集世帯数が年々増加していること、また、2t回収車が進入できない狭隘路地区からのクリーンステーション設置要望があるが、現状の収集体制では対応が困難である。				
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度 の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・ごみの排出量が増加する繁忙期には、指導員・副指導員を収集班に編入し対応した。 ・職員数減少の対応として、植木剪定材と不燃ごみ収集の一部を委託導入した。 ・「ごみの分別強化月間」を設定し、自治・町内会廃棄物減量化推進員等と協働して、クリーンステーションでの早朝立番によるごみの分別・排出指導を実施した。				
	未解決の 課題・問題 点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・職員の減員継続の中で、収集等業務に係る人員確保に苦慮しているが、引き続き民間委託の導入の拡大を図る必要がある。				
	今後の方 針(対応・ 改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・安定した収集体制・市民サービスを確保していくには、今後も必要に応じて民間業者への委託の幅を広げ、直営・民間業者とが一体となって収集効率・市民サービスの維持を目指していく。				
一次評価(課長評価)			二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了						
評価結果	改善の必要性	「声かけふれあい収集」等、質の高い市民サービスを提供していくためには、直営収集業務の委託を拡大し、安定した収集体制の確保を図っていく。		評価結果	改善の必要性	今後も民間活力を生かし、収集体制の安定を図りながら「声かけふれあい収集」等、市民サービスの拡充に努めていく。
B	有			B	有	
課長名		石井 貞雄		部名・部長名		環境部 相澤 千香子